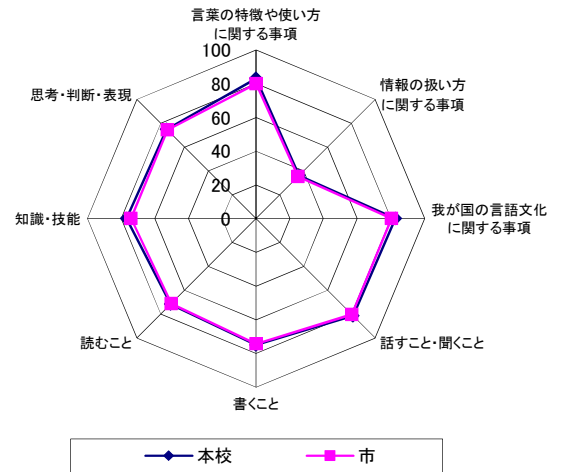


宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.1	80.0	76.5
	情報の扱い方に関する事項	36.1	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	82.7	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	81.5	80.4	77.7
	書くこと	74.9	74.3	62.9
	読むこと	71.7	71.2	65.8
観点別	知識・技能	76.8	74.1	68.4
	思考・判断・表現	75.0	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

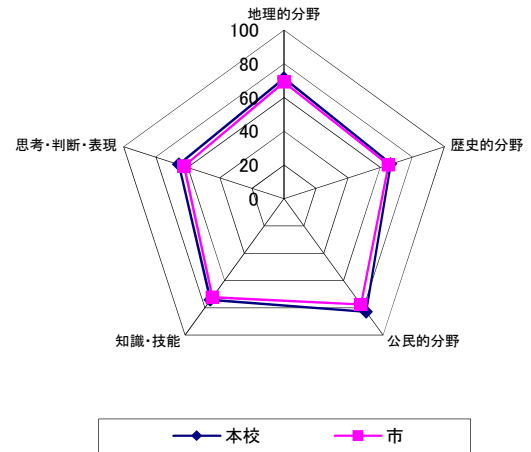
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は市の平均を3.1%上回っている。 ○「小学校で学習した漢字を正しく書く」問題は、市の平均を6.8%上回っている。	・漢字の読み書きについては、今後も継続して指導し、定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は市の平均を0.9%上回っている。 ○「情報と情報の関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える」問題は、市の平均を2.2%上回っている。 ●「情報と情報の関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるよう工夫する」問題はほぼ市の平均と変わらなかった。	・自分の考えを持つ、それを表現する力が弱い生徒が多いので、まずは自分の考えを持たせるよう、ノート指導を工夫する。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は市の平均を2.3%上回っている。 ○「歴史的仮名遣いについて理解する」問題は市の平均を4.5%上回っている。 ●「現代語訳を手掛かりに古典を読む問題は市の平均とほぼ変わらなかった。	・今後も歴史的仮名遣いなど、基本的なことの定着を図るため、音読などにも力を入れていく。 ・教科書以外の古典作品を読む機会を作り、様々な作品に興味関心を持たせる。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は市の平均を1.1%上回っている。 ○「自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話す」問題は、市の平均を5.9%上回っている。 ●「話の展開を予測しながら聞く問題は市の平均を2%下回っている。新型コロナウイルス感染症予防対策のため、話し合い活動が制限された影響があるかもしれない。	・今年度は新型コロナウイルス感染予防対策のため、話し合い活動が思うように出来なかったが、様子を見ながら意見交換の時間を設けるとともに、聞き取り問題を多く取り入れ、話の展開を予測する機会を設ける。
書くこと	○平均正答率は市の平均を0.6%上回っていた。 ○「誰の意見に賛成か自分の立場を明確にして書く」問題は平均を2.3%上回っている。 ●「自分が今後どうしていくべきかを書く」問題は、市の平均を1.4%下回っている。	・自分の立場を明確にすることはできているので、そこから発展した自分の意見を持てるよう様々な文章に触れさせるとともに、書いた文章を生徒同士で読み合い、推敲させる等より良い考えにする工夫をする。
読むこと	○平均正答率は市の平均を0.5%上回っている。 ○「物語の展開の仕方を捉える問題は市の平均を2.4%上回っている。 ●「論理の展開の仕方を捉える」問題は市の平均を1.9%下回っている。	・説明的文章の読み取りに対しては、今後もワークシート等を利用して、論の展開に注意させる工夫を行っていく。 ・文学的文章の読み取りに関しては今後も読書を励行し、引き続き読むことに興味関心を持たせていく。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	71.4	69.2	61.5
	歴史的分野	66.6	65.1	59.1
	公民的分野	83.0	77.6	71.6
観点別	知識・技能	74.3	72.2	66.8
	思考・判断・表現	65.6	62.3	53.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

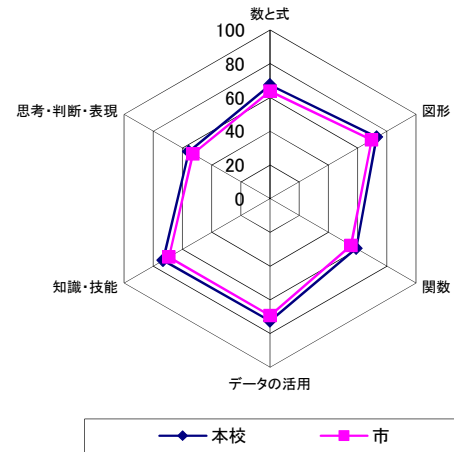
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○平均正答率は、市の平均を2.2%上回っている。 ○世界の姿、日本の地域的特色については、どの問題においても市の平均を上回っている。 ●九州地方の地形についての正答率は、7.7%下回っている。	○資料を読み取って考察し、記述で表現する活動を多く取り入れる。
歴史的分野	○平均正答率は、市の平均を1.8%上回っている。 ○古代までの日本の正答率は、おおむね高い傾向にある。 ●旧石器時代の人々の生活や、江戸幕府の大名の統制についての問題の正答率は、他の問題と比べ低い傾向がある。	○資料を読み取って考察し、記述で表現する活動を多く取り入れていくとともに、基礎知識の定着も図っていく。
公民的分野	○私たちの生活と現代社会と人権の尊重と日本国憲法については、いずれの問題においても、市の平均を上回っている。 ●憲法の手続きに関する問題の正答率が、他の問題と比べて低い。	○基礎知識の定着を図り、新聞などを活用しながら、理解を深めていく。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	67.4	63.7	61.5
	図形	73.0	69.6	61.1
	関数	59.1	55.4	43.5
	データの活用	72.6	69.3	64.2
観点別	知識・技能	73.2	69.2	65.3
	思考・判断・表現	55.6	52.9	42.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

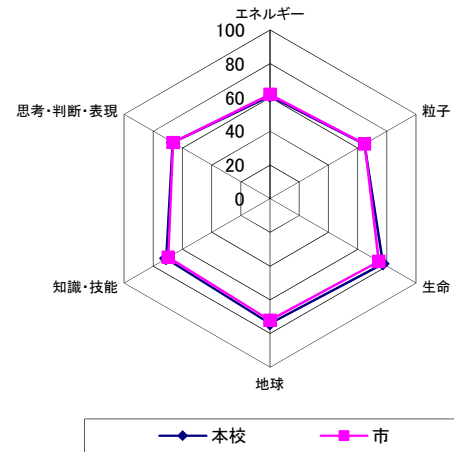
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○平均正答率は市の平均より3.7%上回っている。特に根号をふくむ式の乗法を問う設問に対する正答率が、市の平均を10.3%も上回っている。計算過程を大切にしながら、ていねいな計算処理や表現の指導の成果と考えられる。</p> <p>●平均正答率は市の平均を上回っているが、正負の数を利用した平均について説明する設問が39.1%と低く、自分の言葉で説明する問題への苦手意識が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時に基礎計算問題プリントを準備して取り組んだり、授業時間内により多くの計算練習ができるようプリントを準備して取り組んできた成果が見られるが、計算の仕方や計算処理がまだ定着しない生徒も見られるため、引き続き基礎計算問題についてより早くより正確に処理できるよう練習・指導していく必要がある。 説明する問題への苦手意識を克服していく必要がある。
図形	<p>○平均正答率は市の平均より3.4%上回っており、正答率73.0%と領域別では最も高い正答率の領域である。設問別に見てもすべての設問に対する正答率が市の平均を上回っており、比較的定着していると考えられる。</p> <p>●証明の必要性を問う設問に対する正答率が48.2%となっており、他の設問の正答率と比較すると低い正答率である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作図や証明の仕方については丁寧な指導と生徒の取り組みの成果が見られるが、図形の角度を求める問題や証明問題演習の機会を増やし、さらに理解を深めさせる必要がある。
関数	<p>○平均正答率は市の平均より3.7%上回っている。設問別に見ると一次関数において表を読み取り、xとyを式に表す設問に対する正答率は90.0%と最も高い。</p> <p>●平均正答率は市の平均を上回っているが、式やグラフを用いて説明をする設問に対する正答率が35.5%となっており、他の設問の正答率と比較すると低い正答率である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 比例、一次関数、2乗に比例する関数の基本的な知識や理解力は身に付いているが、関数領域を苦手とする生徒も多く、さらに演習の機会を設け、苦手意識を無くすとともに応用力を身に付けさせる必要がある。
データの活用	<p>○平均正答率は市の平均より3.2%上回っている。設問別に見るとヒストグラムを読み取る設問に対する正答率は82.3%と最も高い。</p> <p>●設問別に見ると箱ひげ図と四分位範囲の理解を問う設問に対する正答率が59.1%と最も低く、箱ひげ図や四分位範囲の考え方が定着していないことが分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る際、普段あまり目や耳にしない言葉も多く、定着が図られていないことが結果から読み取れるため、資料の活用に関する基本的な知識や理解を再確認する必要がある。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	60.9	61.8	60.6
	粒子	64.6	64.8	54.0
	生命	77.4	74.5	66.6
	地球	74.1	72.1	63.0
観点別	知識・技能	71.2	69.6	63.4
	思考・判断・表現	66.5	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

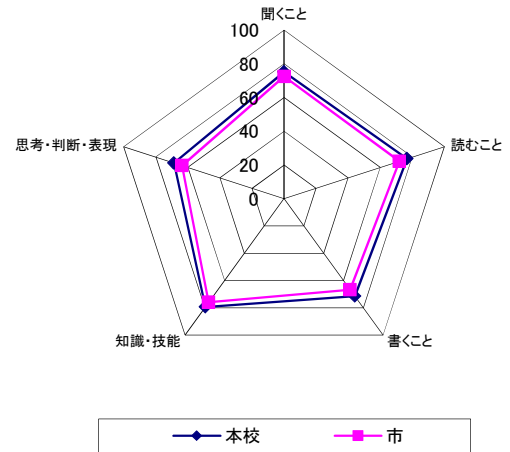
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○「電流がつくる磁界の向きがわかる」の正答率は、市の平均を6.1%上回っている。</p> <p>●エネルギーの単元の平均正答率は、市の平均を0.9%下回っている。</p> <p>●「電流が流れているコイルが磁界から受ける力の向きを、反対にする方法を考えることができる」の正答率は、市の平均を7.4%下回っている。</p>	<p>●電流が流れているコイルが磁界から受ける力の向きを、反対にする方法を、実験を通して見出す。また、問題演習時に、フレミングの左手の法則の使い方を説明する。</p>
粒子	<p>○「酸の陰イオンとアルカリの陽イオンが結びついてできた物質を塩と指摘できる」の正答率は、市の平均を5.9%上回っている。</p> <p>●粒子の単元の平均正答率は、市の平均を0.2%下回っている。</p> <p>●「水素とアンモニアに共通する性質がわかる」の正答率は、市の平均を5.0%下回っている。</p>	<p>●水素を水上置換法、アンモニアを上方置換法で、気体を集めて性質を確かめさせる。実際に実験を行い、知識の定着を図る。また、水上置換法、上方置換法を使うことから、2つの気体は空気よりも密度が軽いことを想起させる。</p>
生命	<p>○生命の単元の平均正答率は、市の平均を2.9%上回っている。</p> <p>○「根の先端部分を塩酸で処理する理由がわかる」の正答率は、市の平均を9.5%上回っている。</p> <p>●「コケ植物とシダ植物を分類する特徴を理解している」の正答率は、市の平均を4.3%下回っている。</p>	<p>●実物を提示し、学習対象にイメージを持ちやすいようにする。投影装置や拡大写真を用い、視覚的に比較できるようにする。</p>
地球	<p>○地球の単元の平均正答率は、市の平均を2.0%上回っている。</p> <p>○「地震計の記録から、震源からの距離を推測することができる」の正答率は、市の平均を5.0%上回っている。</p> <p>●「寒冷前線の前線面と雲のようすについて理解している」の正答率は、市の平均を2.7%下回っている。</p>	<p>●実物を提示し、学習対象にイメージを持ちやすいようにする。モデル実験や動画を提示し、温度が異なる大気が接したときのそれぞれの動きを確認し、前線のでき方や基本構造について理解させる。</p>

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	75.2	72.5	70.5
	読むこと	76.7	71.9	66.9
	書くこと	71.5	66.8	59.7
観点別	知識・技能	79.4	76.0	73.9
	思考・判断・表現	68.6	63.6	55.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○「聞くこと」の平均正答率は、市の平均を2.7%上回っている。</p> <p>●英文の内容に合うグラフを選ぶ問題の正答率は、市の平均を、2.4%下回っている。</p> <p>○それ以外のすべての設問の正答率は、市の平均を上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業でリスニングを行い、聞かせる回数を増やす。特に、対話の中で、要点に注意しながら聞かせ、大切なところをしっかりと聞けるようにする。 All Englishの授業を行い、日常的に英語に親しませる。
読むこと	<p>○「読むこと」の平均正答率は、市の平均を4.8%上回っている。</p> <p>●対話文を読み、適切な語句を選ぶ問題では、市の平均を下回るものもあった。</p> <p>○対話文や長文、メールなど内容把握の問題のすべての正答率が、市の平均を上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単語の意味や文の構造などにも注意しながら読ませるようにする。 たくさんの長文読解問題に慣れる必要があるので、教科書以外の様々なジャンルの英文を読ませ、Q&AやTorFテストで大意をおさえるとともに、それにかかわる細かい読み取りができるようにする。
書くこと	<p>○「書くこと」の平均正答率は、市の平均を4.7%上回っている。</p> <p>●場面に応じて英文を書く問題の正答率は、市の平均を下回るものもあった。</p> <p>○3文以上のまとまった英文を書く問題の正答率は、市の平均をすべて上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 連語などを活用することで表現力を高めさせる。 自分の意見を英語で伝えられるよう実践的な場面を与えた上で書く活動を取り入れる。

宇都宮市立宮の原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学業指導の充実	・チャイム前着席や態度の指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「開始時に着席している」の肯定割合は、1年99.5%、2年98.1%、3年97.7%で、「忘れ物をしない」の肯定割合は、1年92.3%、2年96.2%、3年97.7%で、全て90%を超えている。 ・「授業に集中している」の肯定割合は、1年94.3%、2年90.5%、3年92.5%で、全て90%を超えている。
・授業展開の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が考えを伝えあい、互いに高め合う授業の展開を工夫する。 ・ICT等を効果的に活用した授業の展開を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「グループでの話し合いに積極的に参加している」の肯定割合は、1年91.4%、2年85.2%、3年83.6%で、全て80%を超えている。 ・「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」の肯定割合は、1年77.0%、2年75.7%、3年77.1%で、80%に達していない。 ・「ものをいろいろな視点や立場から考えている」の肯定割合は、1年86.6%、2年82.4%、3年86.0%で、80%に達している。
・家庭学習の習慣化	・課題の提出を徹底させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「宿題を期限までに提出している」の肯定割合は、1年79.9%、2年87.1%、3年88.3%で1年生は80%を超えられなかった。学年が上がるにつれて数値が上昇しており、1年は、市の割合を下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・現在の学力を維持させていくために、学業指導を基本として3つの重点的な取組を次年度も継続していく。
- ・パソコンへの習熟度に課題が見られたので、1人1台端末でいつでも使用できるようになり、色々な授業時間や家庭で操作に慣れさせ、各教科で活用の工夫をしていく。
 (「パソコンを使ってまとめることができる」の肯定割合は、1年79.4%、2年71.9%、3年84.6%である。「パソコンを使って相手に分かりやすく、自分の考えや調べたことを伝えられる」の肯定割合は、1年67.0%、2年67.1%、3年78.0%である。両方とも全学年、市の割合を下回っている。)
- ・家庭での学習については課題が見られたので、繰り返し家庭学習の目的や内容について根気強く指導していく。
 (「その日のうちに復習している」の肯定割合は、1年45.9%、2年42.4%、3年34.6%となっており、昨年の割合より減少している。「自分で計画を立てて取り組んでいる」の肯定割合は、1年58.9%、2年57.1%、3年62.1%となっており、昨年の割合より減少している。)